

大学生の学習面・行動面等の 困難感に関する研究

— 学生生活の全体的な印象との関係 —

衛藤裕司 (大分大学)

キーワード：大学生，困難感，学習面・行動面

目 的

本研究の目的は，大学生の学生生活全体の困難感と学習面・行動面等の困難感との関係を明らかにすることである。

方 法

対象者は大学生81名（男性29名：女性52名）であった。対象者には，①学生生活の全体的な印象に関する質問項目（1問），②佐藤・衛藤（2009）が提案した「困り具合に関するセルフチェックリスト（改訂版）」の質問項目（48問），に対し，4段階のリッカート尺度による困難感の評定が求められた。

その後，②の因子分析（バリマックス法，直交回転）と，①の評定値による高群と低群の平均値の t 検定が行われた。

結果と考察

結果を表に示した。全23項目から構成される4因子が抽出され，そのうち12項目で5%水準以上の有意な差が見られた。この結果から，学生生活の全体的な困難感の印象は，「不安感・孤立感」や「心理化の困難」という対人的な面と関係している可能性が示唆された。

表 全般的困難感高群と低群の平均値による t 検定の結果（「**」=P<.01, 「*」=P<.05）

因子	番号	質問項目	全般的困難感		有意差	全体
			高群	低群		
第1因子 不安感・孤立感	38	自分はダメな人間だと思う	3.22	1.25	**	2.11
	39	気分が沈みがちである	3.00	1.17	*	2.01
	40	周りから孤立していると思う	3.06	1.17	**	1.96
	45	学業に関する相談相手を探すのに苦労する	2.50	1.00	**	1.95
	46	友人関係に関する相談相手を探すのに苦労する	2.78	1.00	**	1.91
	47	進路に関する相談相手を探すのに苦労する	2.78	1.33	*	2.07
	48	現在も，大学生活にうまく適応できていないと感じる	2.65	1.08	**	1.79
第2因子 読み書き・心理化の困難	1	誤字・脱字が多い	2.17	1.08	*	1.83
	3	文字や文章を正確に読むのが苦手である	2.33	1.42	ns	1.98
	4	本を読む時，内容を理解するのに時間がかかる	2.72	1.25	*	2.18
	7	講義を聞きながらノートをとるのが苦手である	2.00	1.08	ns	1.74
	12	聞く人・読む人が分かりやすいような配慮をして，考えを話したり，文章にしたりすることが苦手である	2.72	1.58	*	2.20
	26	二つ以上の作業を同時に行うとよく混乱する	2.61	1.17	*	2.12
	32	他の人が考えていることを理解するのが苦手である	2.50	1.00	*	1.91
第3因子 不注意・成績不振	10	レポートや宿題に集中できず期日に間に合わない	2.33	1.33	ns	1.95
	19	諸手続や課題の提出日を忘れてしまうことが多い	2.44	1.42	ns	2.04
	20	紛失物が多い又は物をどこに置いたか忘れる	2.72	1.50	ns	2.41
	22	よく掲示物や配布物に気がつかない，もしくは忘れる	2.56	1.33	ns	2.11
	43	最低基準の成績を取るのに苦労している	2.44	1.67	ns	2.08
	44	良い成績を取るのに苦労している	3.28	2.16	ns	2.85
第4因子 衝動性	17	授業の予定が突然，変更されると混乱する	2.06	1.17	ns	1.58
	36	突然カッとなることが多い	2.11	1.33	ns	1.71
	37	衝動的に物を投げたり，壊そうとすることがよくある	2.06	1.33	ns	1.58